

産業建設委員会行政視察報告

1. 視察日程 平成30年5月21日（月）～23日（水）
2. 視察場所 山形県寒河江市（道の駅寒河江チェリーランド）－21日
山形県天童市（株式会社 和農産）－22日
山形県南陽市 //
3. 視察参加者 委員長 加来 喬 副委員長 富来 征一
委員 渡辺 雄爾 委員 小野 義美
委員 二宮健太郎 委員 泥谷 修
（随行職員）農林課長 松成 茂 議会事務局 松下 康幸
4. ①道の駅寒河江チェリーランド出席者
(株)チェリーランドさがえ 専務取締役 鈴木 正洋
(株)チェリーランドさがえ 道の駅寒河江駅長 芳賀 弘明
②天童市役所・株式会社和農産出席者
天童市議会議長 赤塚 幸一郎
天童市農林課長兼農業委員会 事務局長 武田 文敏
天童市議会事務局 調査係長 峰谷 幸太
(株)和農産 代表取締役 矢野 仁
③南陽市出席者
南陽市議会議員（総務常任委員長） 山口 正雄
南陽市文化会館 館長 板垣 俊一
南陽市みらい戦略課 課長補佐 長島 透
南陽市議会事務局 局長補佐 田中 聡
5. 視察事項

（1）寒河江市（道の駅寒河江チェリーランド）

【視察内容】

山形の特産であるサクランボを中心に通年で果物観光が楽しめる道の駅寒河江チェリーランドを視察し、道の駅の運営について研修した。

【概要】

平成2年第3セクター（株）チェリーランドさがえを設立。平成4年レストランとしてチェリーランドさがえをオープン。平成5年に道の駅として登録した。事業費は53億円。内訳は、市有施設28億円・チェリーランド寒河江17億円・その他（サクランボ狩り園等）8億円となっている。施設について

は資料 1 の通り。年間 100 万人の来客で、年間 12 億円程の売り上げとなっている。

資料 1

施設		内容	敷地面積
チェリーランド	国際チェリーパーク	各国のサクランボと四季を通した果樹を中心に東屋を配した公園	15,000 m ²
	イベント広場	野外ステージ・トルコ会館・ベンチ・噴水・茶室・チェリードーム	16,500 m ²
	チェリーランドさがえ	物産会館・レストラン	3,024 m ²
	さくらんぼ会館	さくらんぼ資料館・周年観光案内	1,500 m ²
	駐車場	バス 30 台、乗用車 300 台	12,000 m ²
三色の花の里	三色の里	レンゲ・菜の花・桃	30,000 m ²
	二の堰親水施設	L=1,500m 鯉ロード 390m、東屋、噴水、トイレ等	
さくらんぼ狩り園		さくらんぼ果樹園	80,000 m ²
合計			220,024 m ²

【所感】

果物狩りの周年観光は、苺、さくらんぼ、ブルーベリー、桃など、市内の農園 300 ヶ所と提携し、イベント等を開催する事で一年を通じた集客に力を入れている事は参考になる。また、トイレを綺麗にすることにも力を入れていた。他の道の駅同様、地元の果実を利用したお土産の開発にも力を入れているが、販売する商品のうち地元商品の割合は 2.5～3 割という点は気がかりである。農産物直売は他地域で JA が行なっている事が地元商品率が低い原因と思われる。いずれにしても地元農水産物を活用した商品開発はすぐにでも着手する必要がある。チェリーランド寒河江は道の駅になって 25 年が経過しているが、当初 17 億円あった売り上げは 12 億円に減っている事や、観光が団体から個人へ変わりつつある事などを考え、新たな魅力（日本一の鮎）の発信を模索していた。代表

者は地元でドライブインを経営している 氏で、設立当初から民間の経営ノウハウを活用している。これまでの経営で赤字を出していないという事であるが、杵築市で道の駅を作る際にも経営者（管理運営責任者）を決めて取り組むことが重要だと感じた。



（２）天童市（100%国産飼料による牛肉生産の取り組み）

【視察内容】

100%国産原料にこだわった飼料に取り組むことで、肉質向上や飼料単価の引き下げ、地元の飼料米を使用して地元貢献を実現している（株）和（なごみ）農産の取り組みを研修した。

【概要】

和農産はH20年12月に矢野 仁氏が設立。従業員12名で、黒毛和種肥育牛800頭、繁殖和牛300頭を飼育。飼料の価格高騰・主食用米の価格下落・牛肉の差別化と消費者アピールを目指し、H26年から国産原料100%飼料の給与を開始。H27年に飼料調整保管施設を畜産クラスター事業で建設した。天童地区国産飼料クラスター協議会は、生産者・耕種農家・県・市・JA・食肉事業者が参加している。実証試験では給与飼料（資料2）を与えた試験区と対象区を比較した場合、等級ならびに試食結果において概ね通常肥育よりも良い結果となった。

資料 2

飼料	割合
圧ぺん粳米	13.6%
フスマ	13.6%
圧ぺん小麦	4.5%
圧ぺん大麦	13.6%
脱脂米ぬか	9.1%
イネ SGS	22.7%
大豆粕	9.1%
稲ワラ	13.6%

国産原料 100%飼料の取り組みにより、飼料米（生粳サイレージ向け）作付け面積は H26 年の 2.9 ㌦から 50 ㌦以上に。飼料費も 4 円/kg 以上のコストダウンを実現。使用している原料の 40%以上が米となっている。生粳の買入れ価格は、持ち込みで 6 円/kg、現地渡しの場合市内 5 円/kg 市外 1 円/kg で行なっている。また、生粳だけでなく乾燥粳 20 円/kg、玄米 25 円/kg で買入れている。生粳サイレージの場合、乾燥脱穀の必要もないので稲作農家も好都合である。また生粳サイレージの加工機械も 400 万円程度（建物は別）で購入可能でありトンバック投入、脱気、密閉後も野積み処理が出来るため初期投資も安価である。



【所感】

杵築市で国産原料 100%の飼料を作るには大きな課題がある。しかしながら生糶サイレージの取り組みは実現可能であり、活性化センターを中心に行政主導ですぐに取り組むべきと感じた。生糶サイレージの製造は、飼料コスト削減効果、飼料米への転換と安定収入、食味向上の効果が見込め、初期投資もかからない。

政策として行政主導で肥育農家・稲作農家・JA 等と共同で取り組み、杵築ブラン

ドを確立するべきと感じた。

(3) 南陽市 (世界最大の木造ホール文化会館について)

【視察内容】

地元産木材を使用した世界最大の木造ホールを視察し、建設費・地域への波及効果・運営管理・維持管理費について研修した。

【概要】

平成 8 年に市民から文化会館の建設を求める請願が出される。H24 年 7 月に市長が農林水産省へプレゼン。翌年 3 月に林野庁の森林整備加速化補助金を獲得。4 月に坂本龍一が参加する専門家委員会を設置し、H27 年 10 月にオープンした。

木造一部 RC 造、延べ床面積 5900 m²、①大ホール 1403 人収容②小ホール 500 人収容③キッチンスタジオ④木育広場⑤会議室⑥ワークルーム⑦ギャラリーなどが主な施設である。

事業費は 66 億 8 千万円。内訳は、補助金交付金 32 億 9 千万円、起債 10 億 8 千万円、基金 8 億 6 千万円、一般財源 14 億 5 千万円となっており、補助金交付金が半分を占める。地元木材の調達に 1 億 1500 万円、構造材の制作に 12 億 6500 万円を使用。林業の雇用創出 19489 人、林業へ 13 億 8 千万円の経済効果が上がっている。また徹底した分離分割発注(11 業者 27 契約)により地元企業での施工を行っている。

木造でホールを作るメリットに音響・ランニングコスト軽減・快適空間の確保があり、特に音響はホールを利用したアーティストから高評価を得ている。

運営は市直営(館長以下 9 名の職員)、施設の維持管理は 27 業者と委託契約し、維持管理費は人件費を含め 1 億円強となっている。ホールの稼働率は月 4 回以上のコンサートなどを開催し 40%程度、利用料収入は予算ベースで 1500 万円を計上している。

【所感】

使用料収入 1500 万円に対し、人件費を含む維持管理費が 1 億円強かかっている事は、杵築市で市民会館を作る上でも慎重に検討する必要がある。一方で実際にホールを使用するアーティストを設計段階で検討委員会に入れる事で稼働率が高い施設となっている点は高く評価できる。これまで 2~3 千円のチケットでしか呼べなかった旧文化会館が、8 千円のチケットでも興行できる施設に様変わりし、市外からの利用者獲得につながっている点は参考になる。

建設費の半分を補助金交付金で賄った点は高く評価できる一方で、杵築市で建設を計画する場合、このように高い割合で補助金や交付金を獲得できるかは疑問である。有利な補助金を獲得するための市長や職員の努力が必須となる。

地元木材を利用し、地元雇用や経済効果を波及させるためには 3~5 年かけて木材調達する中期計画が必要になる。66 億 8 千万円もかけた南陽市のような巨大な文化会館ではなく、身の丈にあった文化会館を作る事は十分可能であり、地元木材を活用した文化会館を作る事は、文化会館を望む市民にとっても、地元木材の活用や雇用創出にとっても有効であると感じた。

